

2020 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [牛久市立おくの義務教育学校] 担当教諭名 [小更 宏] (6年1組 35名)

相手国・地域 [インドネシア]

海外学校名 [SDN Bendungan Hilir 12] 担当教諭名 [Sri Famili]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	We can SDGs	34
	外国語	日本の紹介をしよう	2
	図画工作	壁画を描こう	2

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	We can SDGs chance change challenge
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	すべての人々にとって well-being である理想の世界を自分たちで創り出そうという願いをこめて、壁画には日本とインドネシアの子供たちがそれぞれ課題と意識している問題を今と理想の未来を分割して描き、それらを協働して解決していこうという思いを込めました。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
・今回の一番の成果は、先の見えない課題に対して、海外の児童と一緒に考えていこうとする態度が大きく育ったことである。 ・コロナ禍という世界的な問題を通して、児童が世界は一つである、または一つにならなければならないと肌で感じる事ができたことが大きな成果と言える。	・交流に対しては、子供たちは積極的に取り組んでいたが、交流言語の英語が十分に身に付いていないため、子供同士の話し合いに深まりがなかった。 ・自分の思いを相手に伝えるためのプレゼン能力もまだ不十分であると感じた。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
・交流が深まるごとに、相手意識や目的意識が高まり、自分なりに工夫し積極的に活動に取り組む姿が見られるようになった。 ・文化や生活習慣が異なる国で暮らしていても、未来に対して自分たちと同じような思いを持っていることを交流を通して実感し、みんなで課題を解決していきたいという意識が芽生えてきた。	・交流先であるインドネシアの国の様子や学校制度に対しての意識が高まった。 ・本活動を通して、他の教師も SDGs やコロナに対して強い関心を持つようになった。 ・未来を創る子供たちに今後どのような力を身につけていってほしいか今まで以上に考えるようになった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活 動 内 容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	6月 7月	・自己紹介の動画作成 ・相手国について調べる。 ・Zoom での交流(出会い) ・コロナウイルスについての学習	・ほぼ全員の児童がこれから始まる学習に対して高い関心を持ち取り組んでいた。そして、Zoom を使った交流後はさらにその関心が高まっていた。	総合6 外国語2
共有 テーマ学習	8月 9月	・SDGsの学習 ・世界の課題と地域の課題を関連させ、活動テーマについて考える。 ・地域の未来像について地域住民との話し合い。	・SDGs とコロナの学習を同時進行で展開していると、「SDGs の課題を解決していくことがコロナ後の世界につながるのでは」という声を児童の中から聞くことができた。	総合8
融合 メッセージ作成	10月	・電子フォーラムを通してテーマについて協議し、壁画に込めたいメッセージの確認。 ・Zoom を使い、壁画のデザインについての意見交換、そして決定。	・自分や自分たちの想いと交流先の友達の想いをどのように融合させ、絵のデザインの中に生かしていくかということをグループ内で積極的に話し合う姿が見られた。	総合8
創造 壁画制作	11月 ～ 2月	・壁画の作成。活動の様子はフォーラムを通して、相手校と共有。 ・相手校とのきずなを深めるためのハッピーミーティングの実施。	・壁画にあたっては、子供たちがそれぞれの長所を生かしながら分担して、原画を考え絵を描くことができていた。	総合6 図工2
評価 振り返り 自己評価	3月	・振り返り アンケート調査 SDGs のカードゲーム YWT を使った振り返り 前年度にアートマイルに取り組んだ生徒との座談会	・自分たちの活動に対しては、大半の子が満足していた。 ・本活動の中で感じたことや思ったことを実践に移している児童がみられた。	総合6

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	4	互いの国の様子を紹介し合う活動の中、子供たちは自分達とは違う面に気づくとともに、根幹にある思いは一緒であると感じ取ることができ、異なるものに対して寛容的に受け入れることができていた。
批判的に思考する力 （客観的・論理的視点）	4	異なる文化をもつ子供たちの意見や地域の大人などの考え方に触れることにより、一つの物事に対して「別の見方をすると・・・」などの意見が出るなど、子供たちの物事を見る視点に広がりを感じた。
主体的に考え行動する力	5	相手校の児童がずっと在宅で、気持ちが晴れないことを伝えると、「相手国の友達に楽しいと言わせたい。」と交流先の子供たちを楽しませる企画を考え、実行することができた。
多様な他者と対話・協働する力 （海外の相手と対話・協働）	5	壁画の原画を考える際に、交流先の子供たちからの提案が素晴らしいと感じると、自分たちの思いだけに固執するのではなく、お互いのよさを上手に融合させて壁画を作成することができた。
想いを言葉や形にする力 （メッセージ作成・壁画制作）	4	日本やインドネシアの子供が持っているそれぞれの思いを一つのメッセージとしてまとめ、それを壁画の中に表現することができた。